

SWCCグループ

2019年3月期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

May 10, 2019

<http://www.swcc.co.jp/>



2019/3期（2018年度） 決算総括

業績：業績は好調に推移、前年度比で+5.3%増収・+5.8%増益

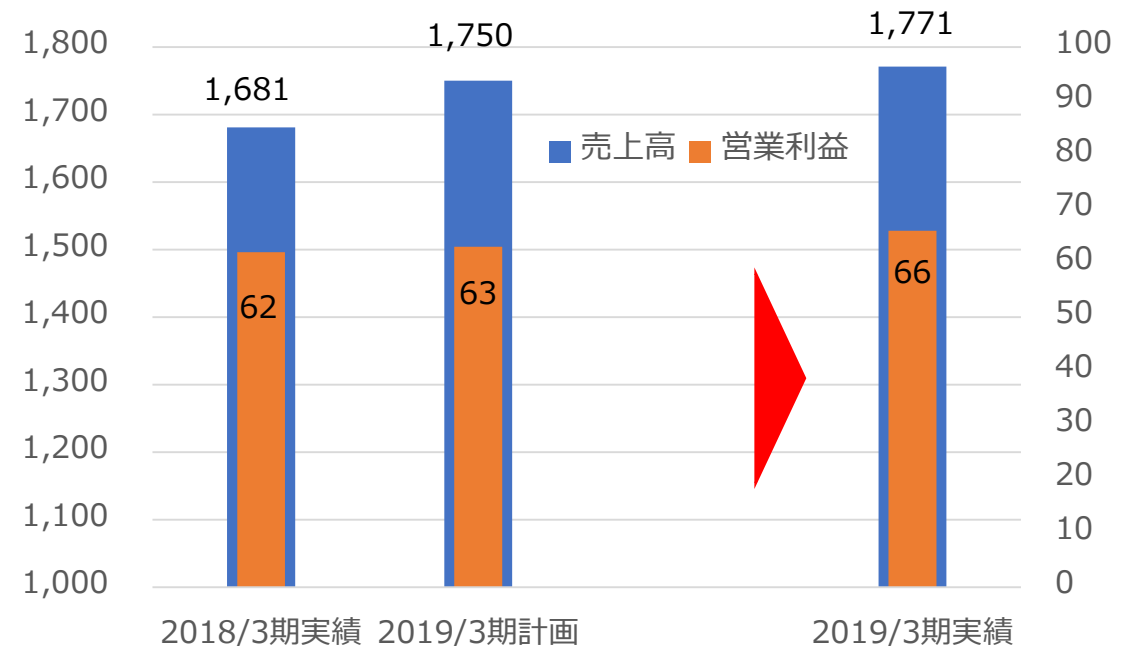
- ・国内における建設・電販向け電線市場は価格競争が依然として厳しい状況であり、海外向け光ファイバ需要は4Qから急減速。エネルギー・インフラ関連の需要は堅調。電力システム事業やデバイス事業が増収・増益となり、全体業績に貢献。

施策面：成長事業と新規事業

- ・建設・電販向けは価格適正化を目指す。
- ・電力システム事業は新ビジネスモデルを推進。
- ・自動車向け銅製品の安定供給策を推進。
- ・業務効率改善による経費削減。

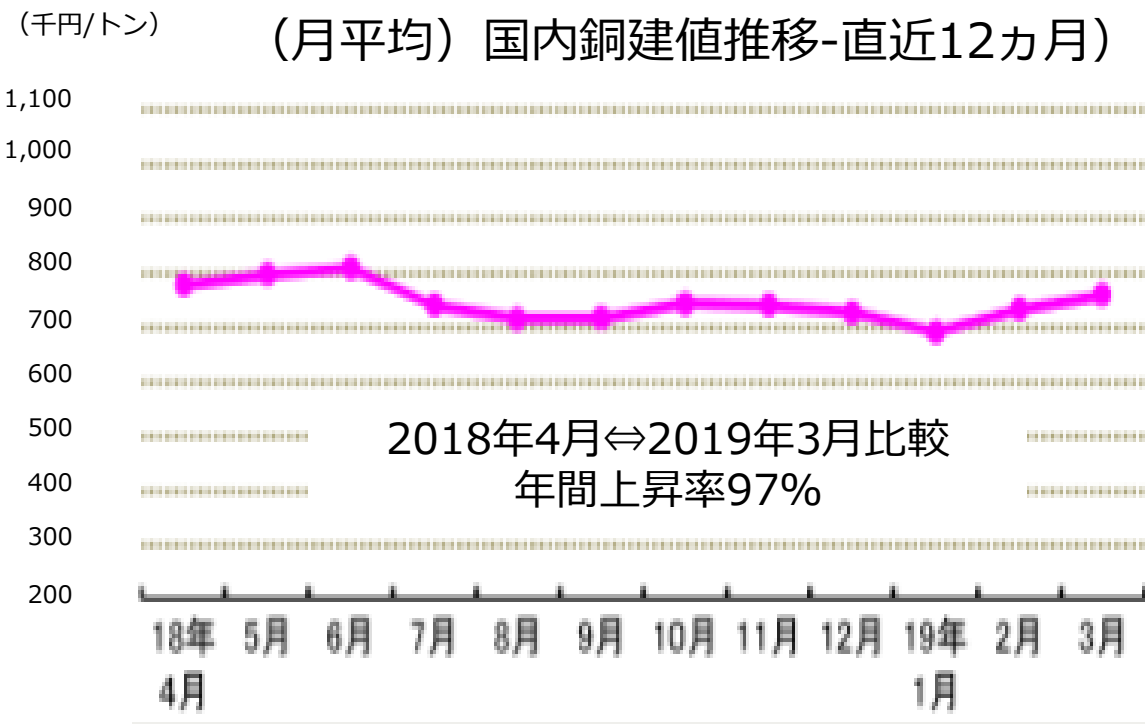
売上/営業利益（前期、計画比較）

（単位：億円）

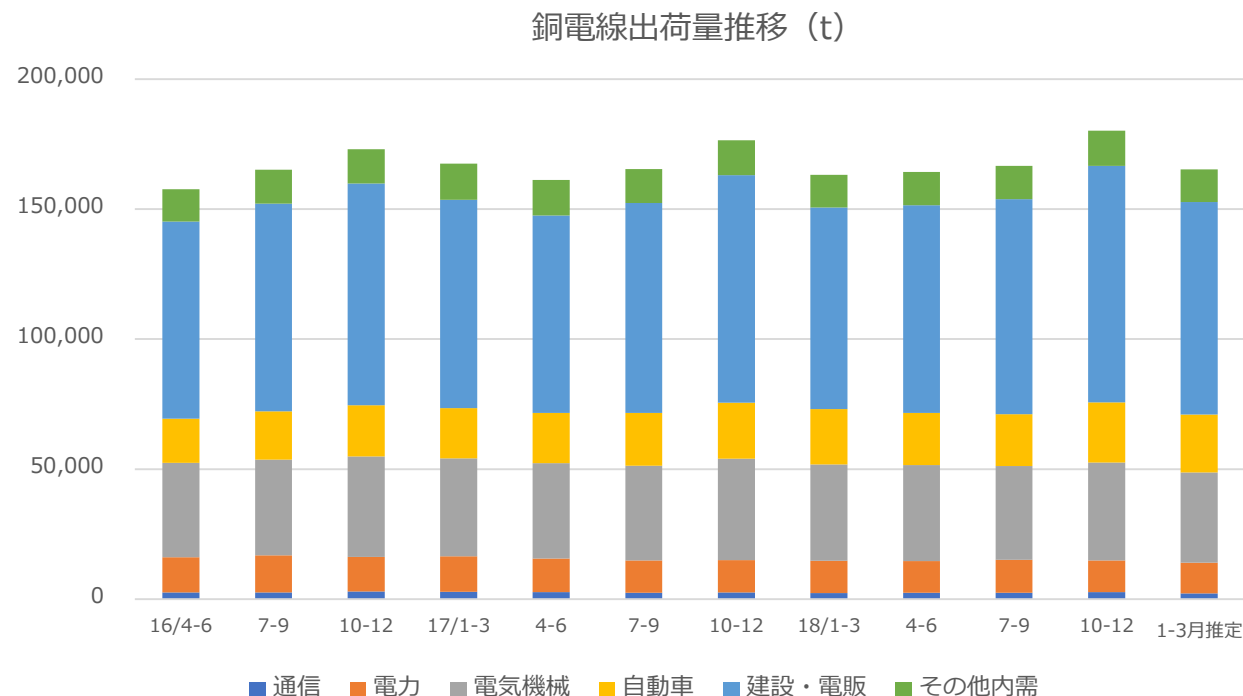


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は夏場以降、若干下落するも安定的に推移。
- 国内の銅電線出荷量も安定的に推移。



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

2018年度：連結損益計算書（前年度比）

- 売上高は前年度比 + 5.3%

経常利益率は前年度比 + 0.3ポイントの構成比3.2%となり、**増収・増益**。

(単位：億円)

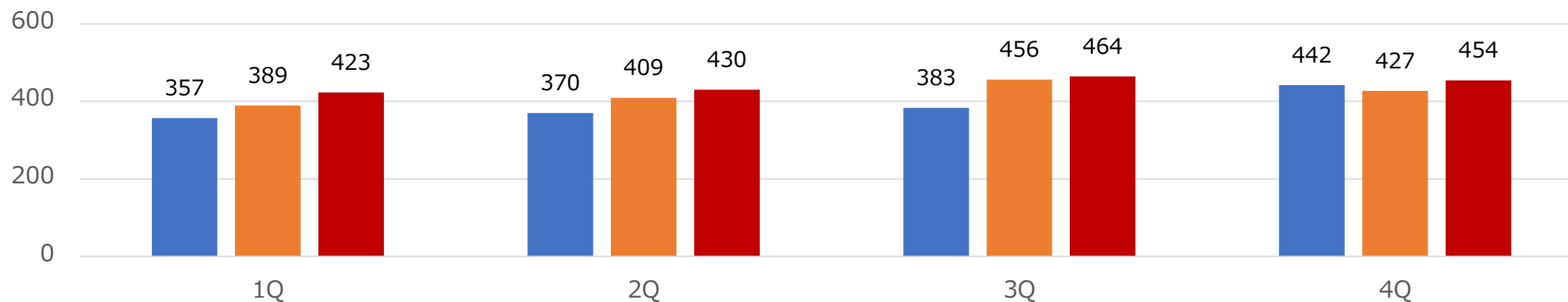
	2017年度 実績	構成 %	2018年度 実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	1,681	-	1,771	-	+5.3%
売上総利益	216	12.9%	217	12.3%	+0.3%
営業利益	62	3.7%	66	3.8%	+5.8%
経常利益	48	2.9%	56	3.2%	+14.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	37	2.2%	45	2.6%	+22.3%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

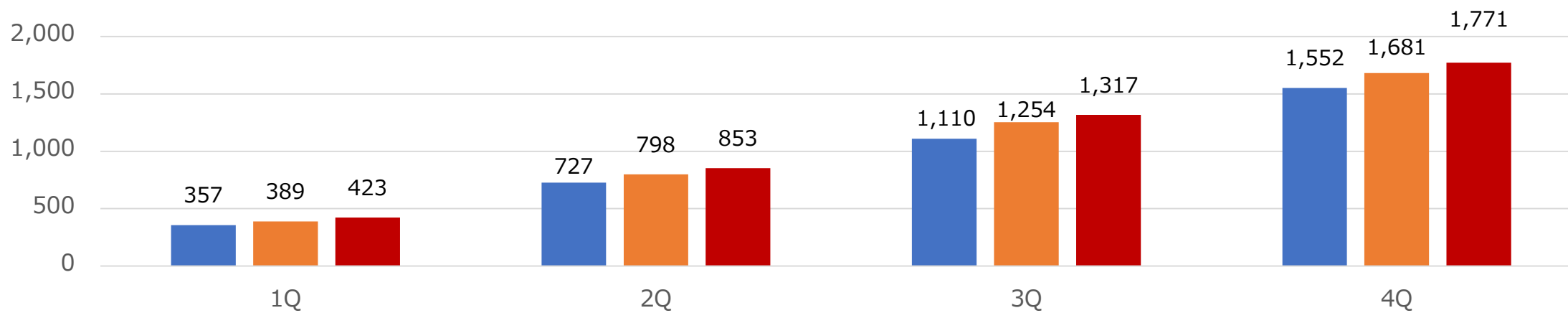
■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度



(単位：億円)

累計売上高推移

■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度

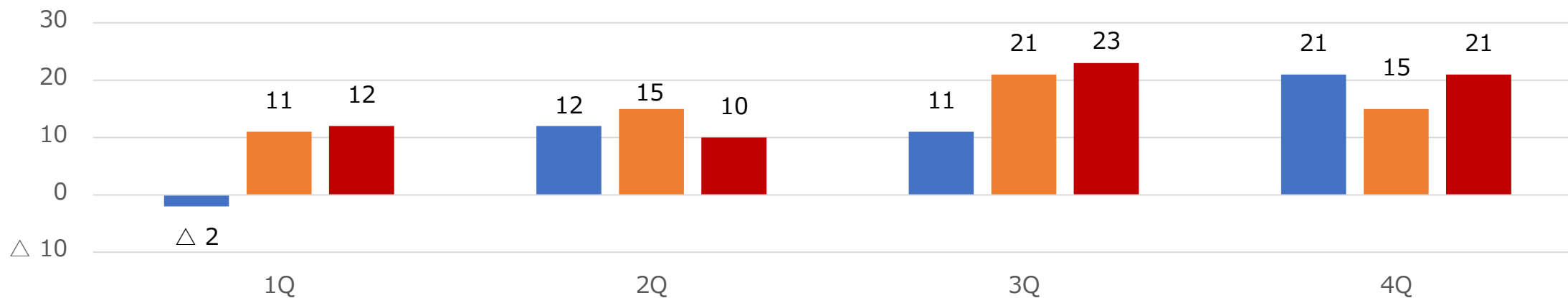


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

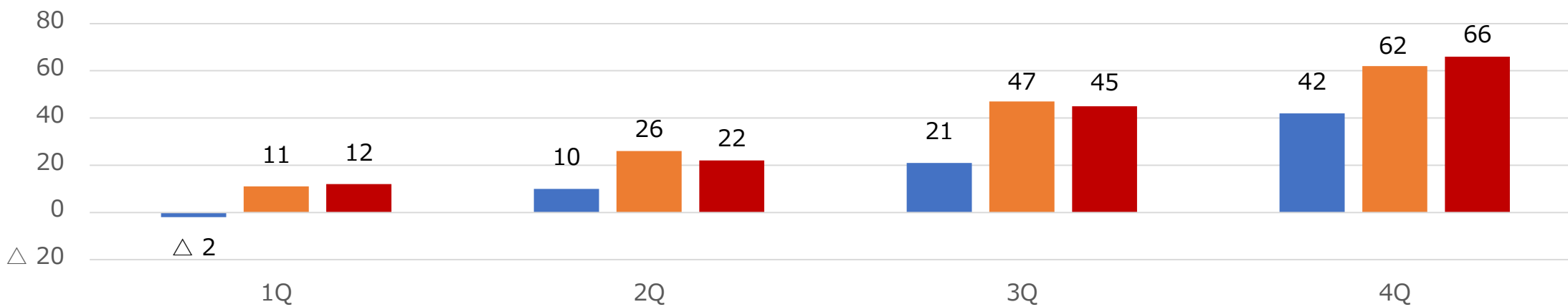
■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度

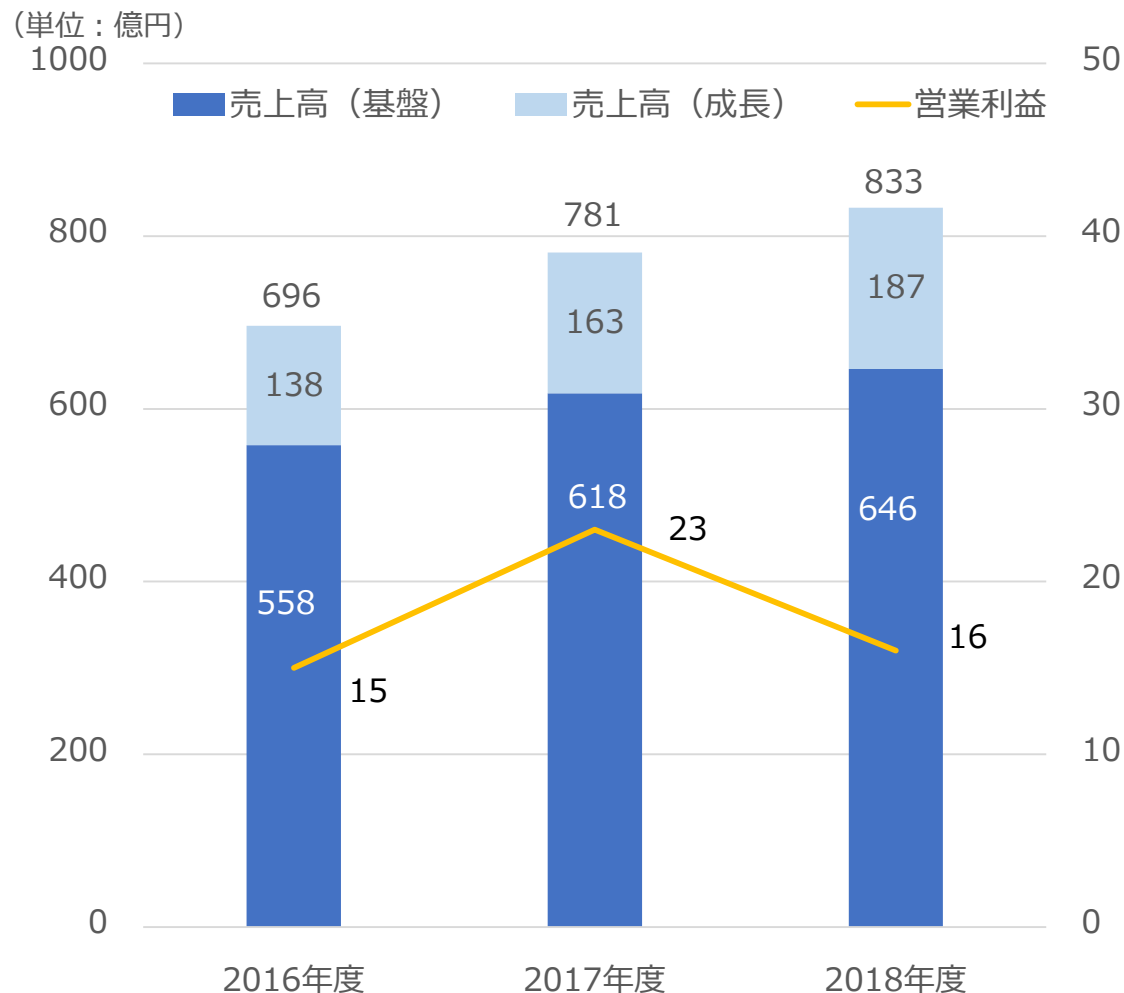


セグメント情報（前年度比）

- ・ 電線線材事業とコミュニケーションシステム事業は、増収・減益。巻線事業は減収・減益。
- ・ 電力システム事業、デバイス事業は増収・増益。

(単位：億円)	2017年度		2018年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電線線材	781	23	833	16	+52	△7
電力システム	263	17	289	25	+26	+8
巻線	212	2	202	2	△10	△0
コミュニケーションシステム	208	14	217	13	+9	△1
デバイス	202	11	212	16	+10	+5
その他	15	△5	18	△6	+3	△1
合計	1,681	62	1,771	66	+90	+4

電線線材事業



■特徴：2つの主要事業領域がある。

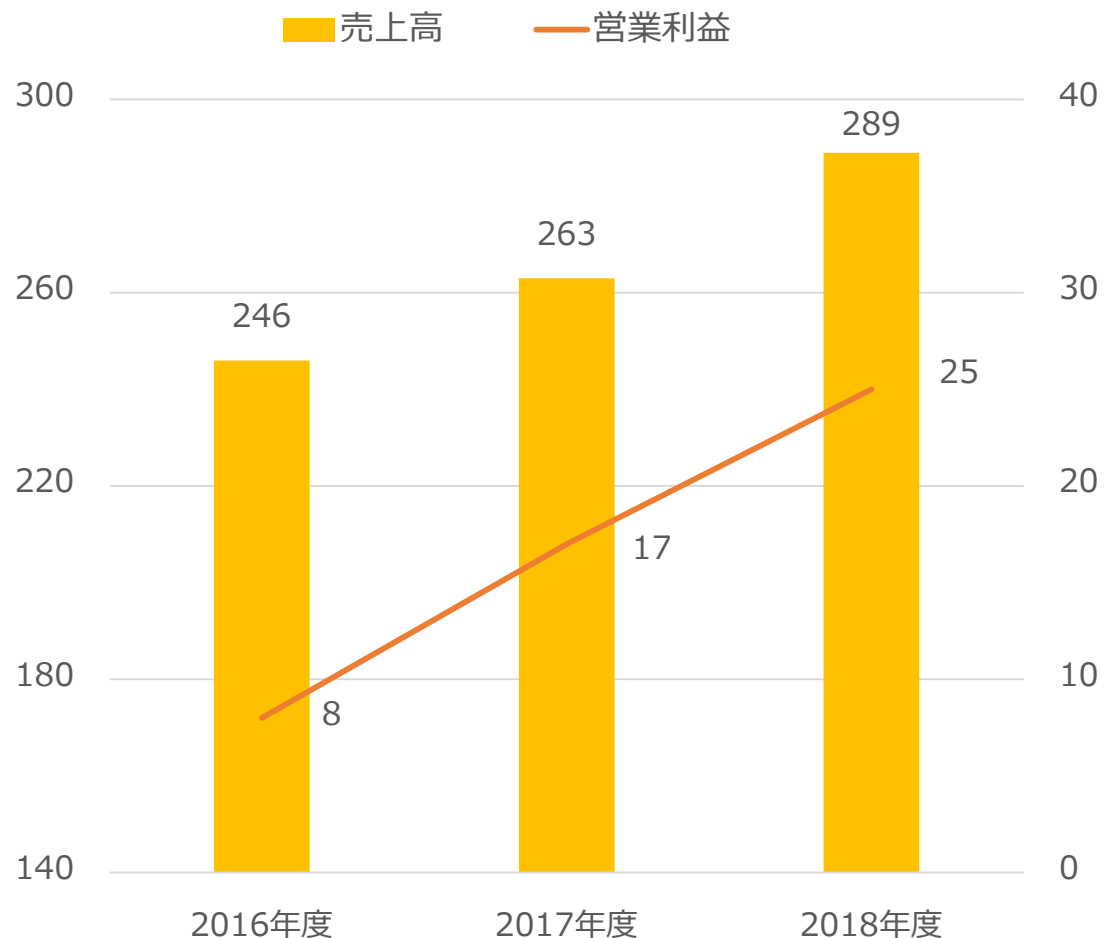
- ①基盤領域：主に建物・施設等の電力配線に使用される建設・電販向け低圧汎用電線および電線用線材等
- ②成長領域：自動車等に使われる高品位・高機能線材（無酸素銅MiDIP®、銅銀合金等）

- ①基盤領域：建設・電販向け需要は引き続き堅調であったが、営業利益は低下。
- ②成長領域：成長分野である高機能線材は売上・利益ともに堅調に推移。

- 売上高は、建設・電販向け需要の取り込みと高機能線材需要が増加し、前年度比52億円増の833億円となった。成長領域は増収・増益となるも、基盤領域の建設・電販向けでは価格競争が依然厳しく営業利益では7億円減の16億円となった。

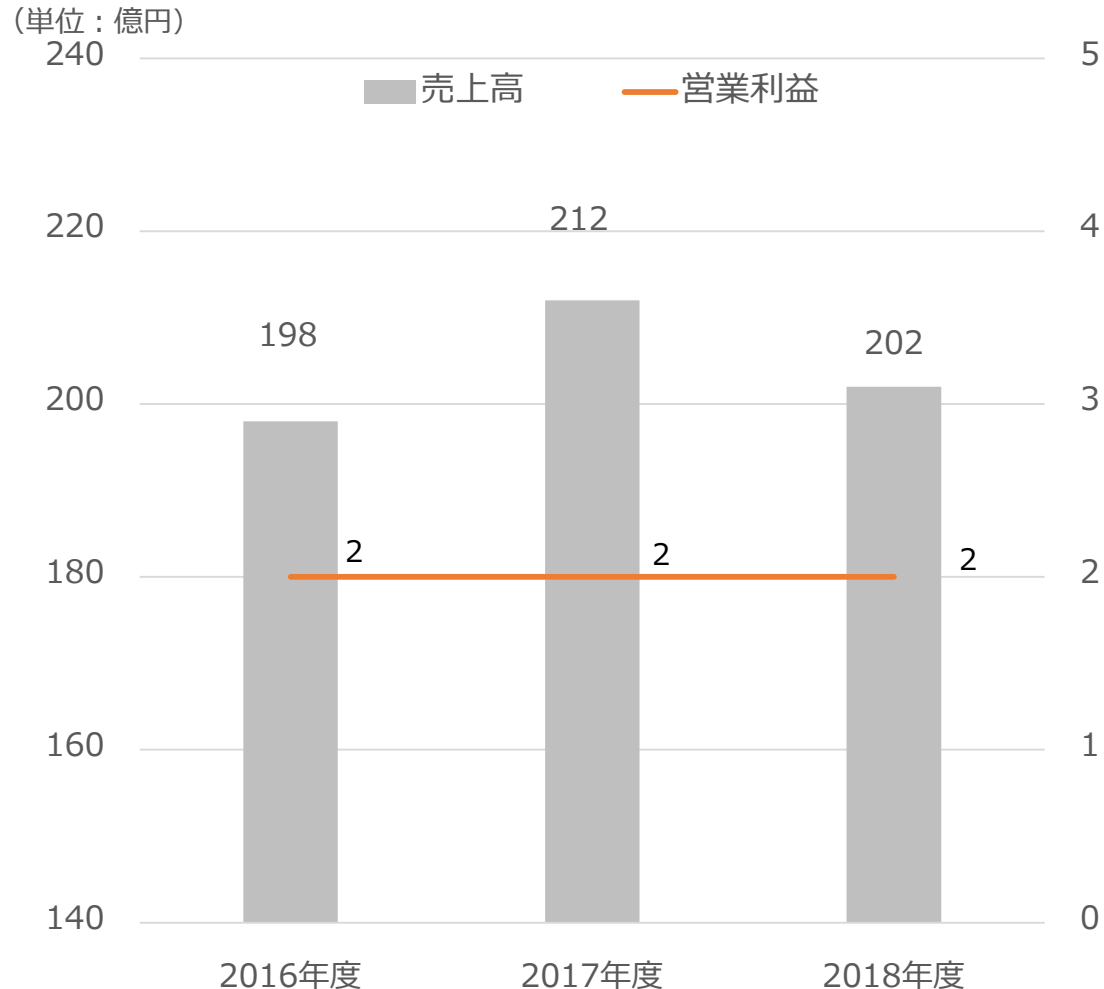
電力システム事業

(単位：億円)



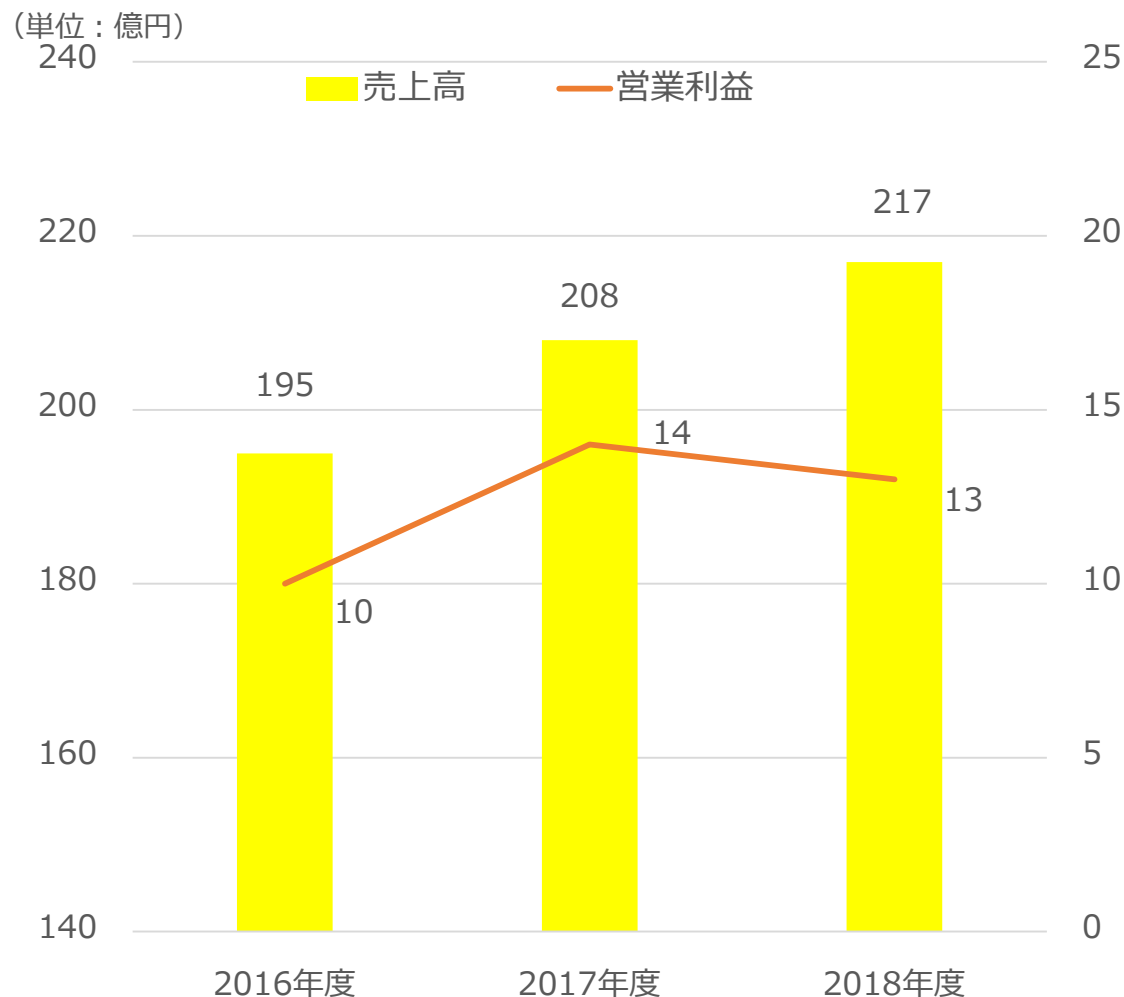
- **特徴**：電力システム事業では、高付加価値製品のケーブル接続部材(SICONEX®)を中心とした変電需要を取り込み、利益率向上へつなげてきている。現在、SICONEX®製品で培った技術を用いて耐震性・安全・環境にやさしく施工性に優れた製品を提供中。
- 電力インフラ需要は、老朽化更新や再生可能エネルギー向けが堅調。工事の高負荷な状況が継続している。
- 売上高は前年度を上回り26億円増の289億円、営業利益は8億円増の25億円となった。

巻線事業



- **特徴**：巻線は、あらゆるモータ、コイルで使用されている。特に自動車分野では、モータ、コイルの高効率が要求されるため、高性能な平角エナメル線の量産を強化中。電子部品用に小型化、薄型化にむけた製品群を供給。
- 電装品向けは堅調であったが、国内インフラ向けや電子部品向け需要が低迷。
- 売上高は、国内インフラ向けや電子部品向けが低迷し、さらには中国連結子会社を連結対象外とした影響等で10億円減の202億円となった。営業利益は、売上減少による影響はあったが、ほぼ横ばいの2億円となった。

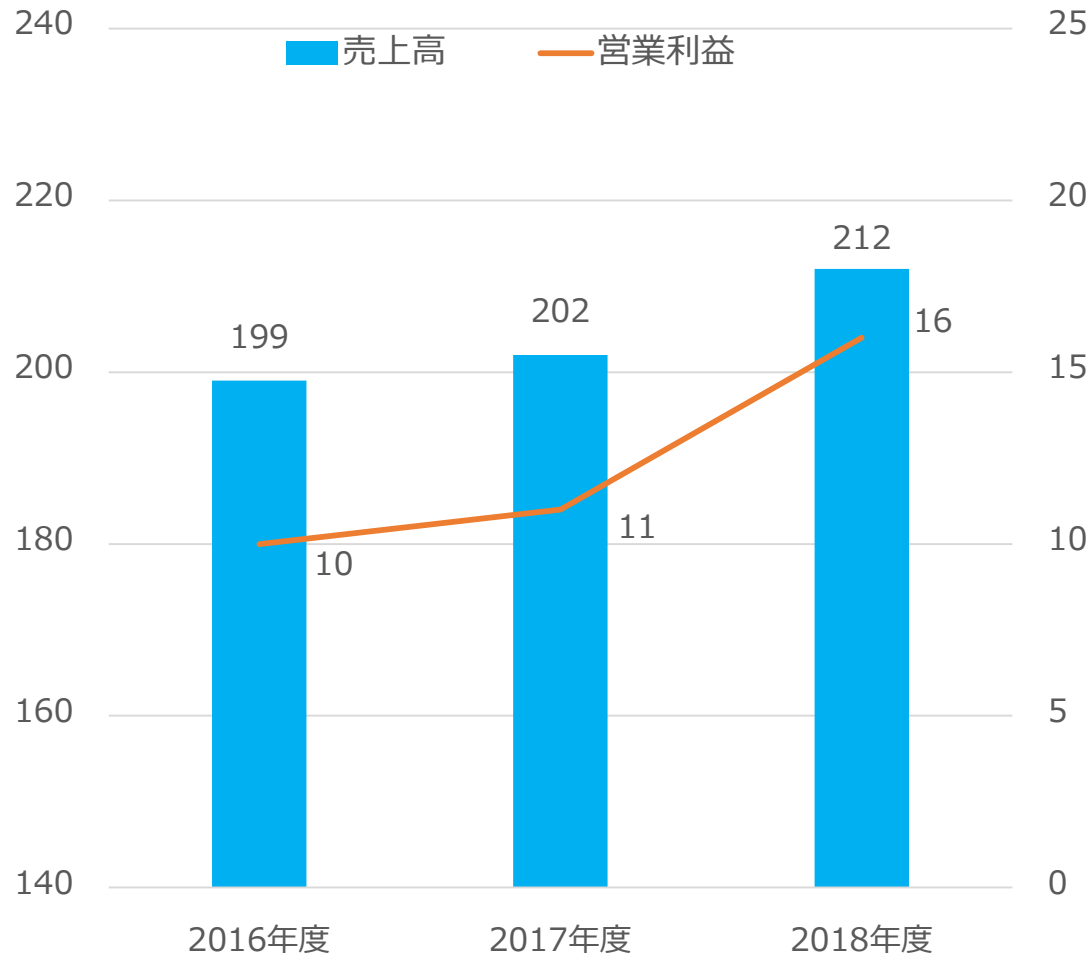
コミュニケーションシステム事業



- **特徴**：コミュニケーションシステム事業では情報通信用の光ファイバからメタルケーブル、電子ワイヤまで数多くの製品を取り扱っている。IoTの普及、FA化が急速に進められる中、産業オープンネットワークに対応した電子ワイヤ製品も取り扱っている。
- 海外向け光ファイバ需要が第4四半期に入り急減速。一方、国内需要は堅調に推移。
- 売上高は、国内通信ケーブルと高付加価値の付属品等が堅調に推移し、前年度比9億円増の217億円となった。営業利益は、海外向け光ファイバにおける価格の大幅下落と在庫評価減の影響から減益となり1億円減の13億円となった。

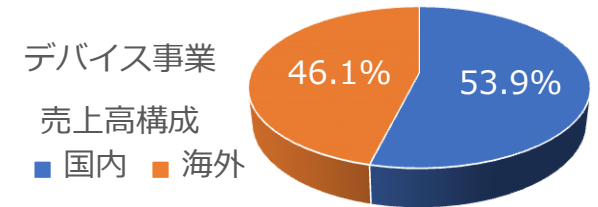
デバイス事業

(単位：億円)



■ **特徴**：デバイス事業では、複写機用部品やワイヤハーネスを製造・販売しており、特に発展する東南アジアでの需要が高く海外売上を押し上げている。免制震事業では、建築用免震部材を製造。豊富な製品のラインナップにより、国内2位のシェアを誇る。

■ 複写機用部品、ワイヤハーネスの海外需要は堅調。海外売上比率は、デバイス事業全体の46%を占める。



■ 免制震事業が好調に推移したことから、売上高は前年度比10億円増の212億円。営業利益は高付加価値品の取り込みにより5億円増の16億円となった。

貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は28.1%（前期末比1.5ポイントアップ）

（単位：億円）

	18/3/31※	19/3/31	増減
現金・預金	47	49	+2
受取手形・売掛金	397	434	+37
棚卸資産	219	213	△6
その他	46	45	△1
流動資産 計	709	741	+32
有形固定資産	396	392	△4
無形固定資産	15	12	△3
投資その他の資産	115	96	△19
固定資産 計	526	500	△26
資産 合計	1,235	1,241	+6

	18/3/31※	19/3/31	増減
支払手形・買掛金	219	212	△7
短期借入金	344	335	△9
その他	136	150	+14
流動負債 計	699	697	△2
長期借入金	132	121	△11
その他	69	67	△2
固定負債 計	201	188	△13
負債 合計	900	885	△15
資本金	242	242	0
資本剰余金	55	55	0
利益剰余金	△35	10	+45
その他	73	49	△24
純資産 合計	335	356	+21
負債・純資産 合計	1,235	1,241	+6

※会計制度変更により組替を行っています。

中期経営計画の2018年度進捗 (KPI)

(単位：億円)	2017年度 実績	2018年度 実績	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,681	1,771	1,950	1,950
営業利益	62	66	70	90
経常利益	48	56	64	86
親会社株主に帰属する 当期純利益	37	45	43	55
営業利益率	3.7%	3.8%	3.6%	4.6%
配当/配当性向	5円 (4.0%)	7円 (4.6%)	20円以上 (約20%)	50円以上 (約30%)
有利子負債	490	466	400以下	300以下
DEレシオ※	149%	134%	90%以下	50%以下
純資産	334	356	470以上	600以上
自己資本比率	26.5%	28.1%	35%以上	40%以上
ROIC	5.4%	5.6%	5.8%以上	6.0%以上

※DEレシオは自己資本で算出

2020/3期 通期業績予想

- ・ 2019年度業績は、2018年度と同水準を想定

(単位：億円)	2018年度 実績	構成 %	2019年度 計画	構成 %
売上高	1,771	—	1,730	—
売上総利益	217	12.3%	—	—
営業利益	66	3.8%	65	3.8%
経常利益	56	3.2%	58	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	45	2.6%	45	2.7%



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

<http://www.swcc.co.jp/>